

もりもり通信



2023年 冬号

八王子市議会議員

森ヨシヒコ 市政報告



森 喜彦（もり よしひこ）1981年生。私立海城高等学校、東京都立大学法学部卒業。八王子市職員を経て2019年より八王子市議会議員（無所属・1期目）。総務企画委員、長期ビジョン特別委員、学園都市文化ふれあい財団諮問委員、表彰審査委員長を務める。清川町在住。

地域ので八王子を元気に つくろう 市民自治の 豊かな社会

はじめに

2019年の市議会議員選挙で初当選をさせて頂いてから、早くも一期4年間の活動期間が満了しようとしています。この4年を振り返ると、実に多くの出来事がありました。2019年の秋には東日本台風による浸水被害、2020年の春にはCOVID-19の本邦上陸、学校の春休みの前倒しと延長、マスクやアルコールなどの対策用品不足や休業要請が行われる一方で、学校には学習用タブレット端末や職場にはリモートワークが普及しました。2021年にはワクチン接種が始まる傍らで東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が行われました。2022年2月にはロシアがウクライナへの攻撃を開始。7月には安倍元首相狙撃事件を発端とした宗教問題、歴史的な円安と物価高騰など、市民生活に大きく影響する世界情勢や政治事件が次々と発生しました。感染拡大防止や生活支援、物価高騰などの諸対策の窓口の多くは自治体が担いますが、予算や事務の基本的な枠組みは国が決め、事務コストが高く実効性にも疑問のある給付金や利用者と現場を無視したデジタル化など、地方の声を受け止めている



清川町自治会のどんど焼き。コロナ禍の終息、平和な一年であることを祈念しました。

ようには思えないものも

多々ありました。変化の多い時代に求められているのはトップダウン型ではなくボトムアップ型の政策提案、競争や自己責任を求める社会ではなくセーフティーネットを備えた社会であり、一人ひとりに合った支援ができるような地域公共の力だと思います。すべての人に居場所と出番がある社会の実現に向けて、今後も地域の皆様とともに取り組んでまいります。

八王子市議会第4回定例会

2022年第4回定例会は11月30日～12月16日を会期として開催されました。市長提出議案は補正予算案をはじめとする54件、議員提出議案が2件、陳情が2件です。補正予算案は原油や物価高騰による市施設等の公共料金への跳ね返り（10.8億円）、市内で急速に拡大しているナラ枯れ対策（2.1億円）、路線バス維持支援（1.5億円）、新型コロナウイルス感染症の入院医療費の増額（1.2億円）などです。COVID-19による行動変容の影響は大きく、全国ではバス路線の減便や廃止を余儀なくされるケースが相次いでいます。公共交通の廃止がきっかけで高校生や高齢者が市外に流出し、地域全体の活力が失われている自治体の例もあります。公共交通の維持発展は、広い市域を擁する本市にとって、今後も重要な政策課題です。



一般質問

一般質問では、①自転車利用促進に向けた環境整備とシェアサイクルの利活用 ②カーボンオフと安全衛生を踏まえた市職員の服装選択 ③小中学校で使われる教科書選定のプロセス ④東京都「パートナーシップ宣誓制度」の4項目について質問をしました。紙面の都合、①④について報告します。



①本市では2020年よりシェアサイクルの実証実験を行っています。シェアサイクルの走行データからは、自転車にとって利用しやすい道路や施設、商業観光のニーズの分析などができます。海外では公共交通と自転車を優先させ、安全で快適な交通環境と環境保護を両立させている都市も多くあります。八王子は坂が多い町ですが、電動アシスト機構も普及が進んでいます。自転車のポテンシャルを活かすために、利用環境整備の進捗と今後を質問しました。④東京都が11月から施行した宣誓制度は、同性婚など現行法で規定のないパートナーシップ関係を都が証明する制度です。日常生活において契約やサービス提供の際、血縁や婚姻関係を要件とするものは多くありますが、都が発行する証明書を提示することで、婚姻関係と同等の取り扱いができるよう各事業者に理解を求めるものです。民間企業では、住宅ローンの収入合算や保険金の受け取り、医療診療情報の提供、携帯電話の家族割などで要件拡大する考えが示されていますが、公的機関においても公営住宅の入居やDV相談など、制度活用の方向が検討されています。既にパートナーシップ制度を導入し、要件緩和を行っている都内自治体と八王子で差が生じないように、市の対応状況について質問しました。

八王子市男女共同参画推進条例

八王子市が男女共同参画都市宣言を行ったのは1999年のことですが、固定的な性別分担役割意識や無意識の思い込みに基づく社会慣行は依然として強く残っており、性別による権利侵害など、起きて

いる問題やその原因の構造、取り組むべき課題は半世紀以上大きく変わっていません。

第4回定例会に上程された標記条例案は市や市民、事業者や市民団体の役割を明記するほか、市民の相談や苦情を受け付ける機関を整備することでジェンダー平等の具体化を図るものです。条例案の策定経過には紆余曲折があり、2021年5月に条例制定検討会が設置、22年3月に条例素案に対するパブリックコメントが募集されたものの、検討会の意見が十分反映されておらず、実効性が薄いとする意見が多く市民から寄せられました。私も第2回定例会の一般質問において、相談申出や苦情処理制度をもっと具体的に規定すべきという立場から質問しましたが、今回の条例案はそれらの声を受け止めたものと評価しております。なおも制度が不十分であるとして一部議員から対案が提出され、総務企画委員会で議論しました。対案もジェンダー平等に資する前向きな提案ではありましたが、制度全体のバランスや運用スキームを考慮し、市側の条例案に賛成しました。条例は本年4月施行予定です。

写真で振り返る直近の活動



明神町に東京都の産業交流拠点「東京たま未来メッセ」がオープンしました。写真は『はちおうじNPO フェスティバル2022』の様子（主催：市民活動支援センター、11/3）



戦没画学生の遺作を収蔵した美術館『無言館』や松代大本営跡を訪問しました。真の安全保障とは軍拡競争ではなく国際協調です。人より武器に予算を割く増税案に地方から反対の声を挙げて参ります。

Facebookでの発信も行っています。

ニュースに対するご意見や感想、市政相談は下記まで気軽にお寄せください。後援会の加入、ポスター掲示の御協力、ポスティングなどのボランティアも随時受付しています。

〒193-0804 八王子市清川町19-10
電話：070-5580-6844
FAX：042-698-5013
メール：info@moriyoshihiko.net

